

大学改革支援・学位授与機構シンポジウム
「大学と社会の対話を通して高等教育の発展を考える」

大学における地域連携・実践型教育の展開

～北九州市立大学の実験～

2017年3月10日

北九州市立大学

眞鍋和博

本日のアジェンダ

- 取り組みの全体像
- 地域創生学群の取り組み、成果
- 地域共生教育センターの取り組み
- 北九州まなびとESDステーションの取り組み
- まとめ

《地域×大学》課題解決プロジェクト

北九州市の地域課題；人口減少、高齢化、過疎化、製造業空洞化、安全安心、 etc…

北九州市立大学
地域創生学群
(2009年～)

猪倉農業関連
子どもの学び支援
地域創生学群広報
小倉活性化
ESDまなびと連携
門司商店街活性化
地域共生教育センター運営
東日本大震災関連
独居高齢者友愛訪問
認知症職場体験
北九州市立療育センター
シニア体カアップ
北方野球教室
車いすソフトボール
FMラジオ番組制作 等

北九州市立大学
地域共生教育センター
(2010年～)

ファッションネットワーク
オープンキャンパス
キャリアーナ
ハッピーバースディ
地域クリーンアップ
防犯・防災
JOB×HUNTER2015
YAHATA-HAHAHA
環境ESD
国際交流
北九州の文学
青空学
東日本絆
食と農業 等

北九州まなびと
ESDステーション
(2013年～)

キタキュープロモーション
モビリティ
子ども・若者の夢を紡ぐ
Green bird
Idea+
ガーベラ
カンボジア支援
ハロウィン
食から始まる健康
藍島
ギラヴァンツ北九州学生応援
科学対話 等

約50プロジェクト、1000名の学生が、北九州においてPBL,SLを実践

言いたいこと

- 理論学習より実践経験を先に
- 学生の主体性を信じ、教員の介入は最小限
- 非日常体験ではなく、地域の日常を共有する
- 地域との関係性「学ばせていただく」
- 地域のメリットを考えから外さない
- 一人ではなく組織で取り組む

地域創生学群について

学部名称：地域創生学群

コース：地域マネジメント,地域福祉,地域ボランティア養成

修業年限：4年 ※最長6年の長期履修制度有

学位：学士（地域創生学）

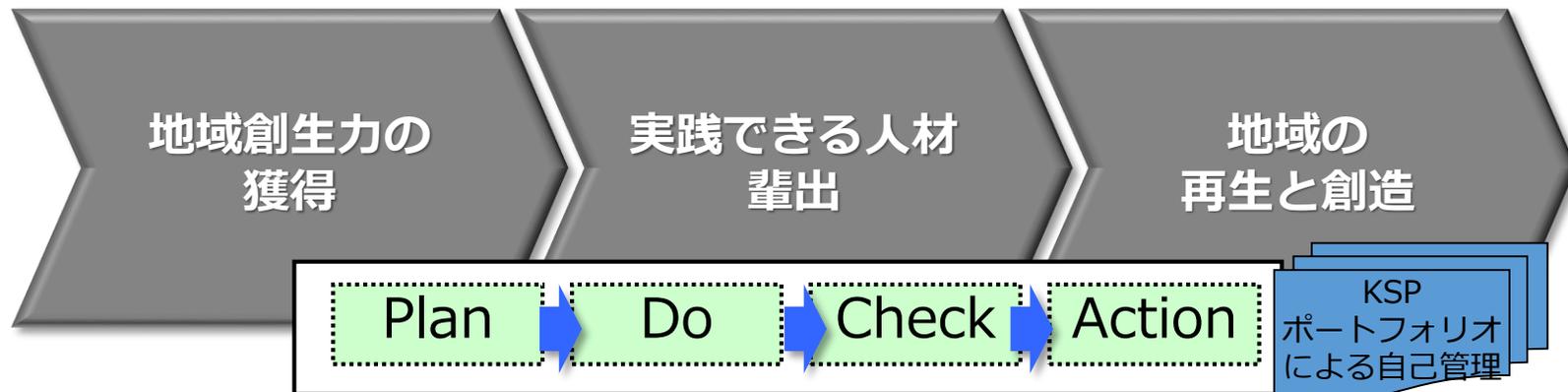
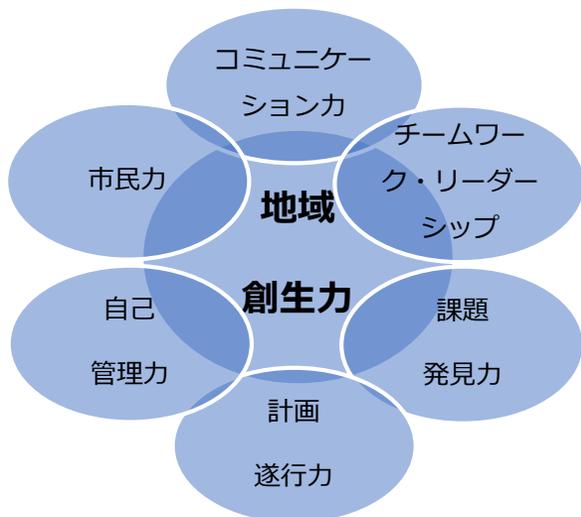
授業時間：月～土、1～7限（9:00-21:10）

設置時期：2009年4月

定員：90名(AO15/社会人特別40/一般35)

2016年より→120名(AO30/推薦15/社会人特別40/一般35)

目的とカリキュラム



| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|----|--------------|---|---|------------------------|
| 実習 | 指導的実習 I・II | 地域創生実習 I・II ｽｰﾌﾟｰﾝﾚﾝﾃﾞｲ実習 I・II 障害者ｽｰﾌﾟｰﾝ実習 I・II | 地域創生実習 III・IV ｽｰﾌﾟｰﾝﾚﾝﾃﾞｲ実習 III・IV 障害者ｽｰﾌﾟｰﾝ実習 III・IV チャレンジプログラム | 地域創生演習 C・D 相談援助演習 5 |
| 演習 | 地域創生基礎演習 A・B | 各コース実践論 I・II 地域創生基礎演習 C・D 相談援助演習 1・2 | 各コース実践論 III・IV 地域創生演習 A・B 相談援助演習 3・4 | 卒業論文・卒業実践報告 |

○地域創生学群／専門基幹科目、専門科目

○基盤教育センター／ビジョン科目、スキル科目、テーマ科目、キャリア科目、情報科目、外国語科目

PDCAのセルフマネジメントと実習・演習の往還が地方創生人材育成のカギ

地域創生学群の特徴について

- 地域での実習が学生のマインド、時間のシェア大
- 初年次教育としての「FMラジオ番組制作実習」
- 地域創生力とルーブリック
- チャレンジプログラム
- マナーの徹底
- エンロールメントマネジメントを重視

地域創生学群 「地域創生実習」

【地域マネジメントコース】

猪倉農業関連

子ども学び支援

地域創生学群広報

小倉活性化

ESDまなびと連携

(モビリティプロジェクト含む)

門司商店街活性化

地域共生教育センター運営

【地域福祉コース】

学外地域組織連携活動

独居高齢者友愛訪問

認知症職場体験

北九州市立療育センター

【地域ボランティア養成コース】

シニア体力アップ

北方野球教室、

車いすソフトボール

成果について

- 汎用的能力の獲得…能力伸長に有意差
- 就職…4年連続100%、地元30%
- 入試・広報…9年間の平均でAO7.7倍、一般(前)12.9倍
- 学生満足度と学群風の醸成…他学部比較でかなり高い
- 地域の活性化、シビックプライド醸成…地方創生総合戦略へ

地域共生教育センター（通称421Lab.）

- 2009年GP採択で設置→2012年から常設
- 他学部学生の実践的教育への参加促進、機会提供
- 学生の居場所機能とロイヤリティ醸成
- 実践的教育の大学内への波及
- 地域活性化、自立化の相談窓口機能
- 学生運営スタッフの活躍



寄せられる案件の整理

分類

プロジェクト型

地域社会への貢献を目的とした長期的なプロジェクトであり、チームを組んだ複数の学生が地域団体との多様な接点の中で、企画提案及び運営への関与等を行う活動。センターにおいて学生指導担当者を配置し、活動の支援等を行う。

マッチング型

地域活動を通して、活動の目的・趣旨を深く理解できる教育的配慮のある活動。センターが活動に伴う地域と学生との調整等を行う。

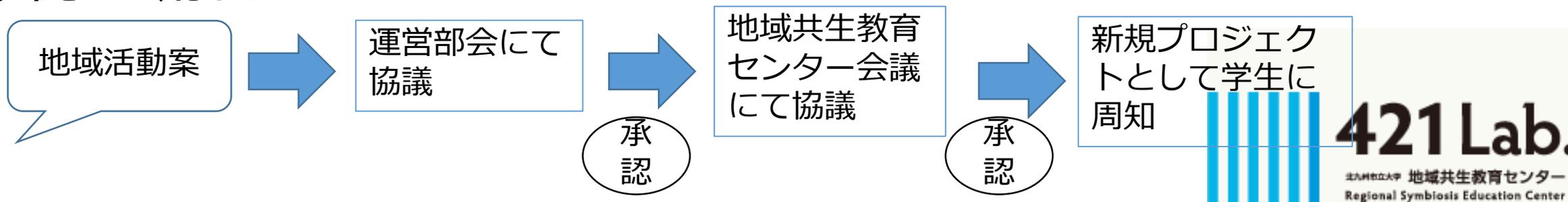
学生提案型

学生が自らの問題意識にもとづき、その課題解決に向かってチームを立ち上げて行う活動。

インフォメーション型

上記以外の活動であり、学生への情報提供のみを行うもの。学生と地域団体が直接やり取りを行う活動。

承認の流れ



北九州まなびとESDステーション

- 2012年度「大学間連携共同教育推進事業」採択
- 市内10大学の連携拠点を商店街内に設置
- 特任教員3名、事務1名、学生アルバイト
- まなびとプロジェクト23、まなびとキャンパス多数
- 6大学の単位互換「まなびと講座」100名強受講
- 2014,15年度は各2万人以上が来所
- 学生500名、市民500名が登録
- 学生、市民のシビックプライドと行動化
- 2017年から北九州市が運営



本学でのA P事業推進の状況

平成26年度「大学教育再生加速プログラム」選定取組



大学等名：北九州市立大学

テーマ：テーマⅡ（学修成果の可視化）

今回の取組では、三層構造の学修成果の可視化の観点から、全学的な教学マネジメントの改善にアプローチする。第1段階では、全学共通のAP(アドミッションポリシー)・CP(カリキュラムポリシー)・DP(ディプロマポリシー)を体系的に整理し、大学が求める人材育成のための基本的事項の整備を行い、授業改善につなげていく。第2段階では、DPに即した人材育成が計画的に進行しているか、自己評価システムを確立し全学生を対象に学修到達度調査等を実施し、社会に出るために必要な認知・汎用能力等を客観的に測定する。第3段階では、更に各学部ごとにWIL(Work Integrated Learning)による学修成果の可視化を行う。具体的には、アクティブ・ラーニング科目を設定し、多面的評価による学生評価指標と地域による実践教育波及指標を導入し、成績評価の項目として設定して、WIL受講学生の成長の可視化を図る。



まとめとして

